

特 殊 報

長崎県病虫害防除所長

平成29年度病虫害発生予察 特殊報第2号

- 1 病虫害名 アスパラガス疫病
- 2 病原菌名 *Phytophthora nicotianae*
- 3 発生作物 アスパラガス

4 発生確認の経過および発生状況

平成29年8月、県内の施設栽培のアスパラガス圃場で、若茎に水浸状病斑を呈する株（図1）が確認された。同様の症状が県内複数の圃場で確認され、採取した検体から分離した菌（図2）を、秋田県立大学に同定依頼した結果、本県では未確認のアスパラガス疫病 *Phytophthora nicotianae* であることが判明した。

5 国内の発生状況

本病害は複数の種が病原菌として知られており、国内では平成10年に富山県で初めて発生が確認（*P. erythroseptica*）され、その後、福島県、長野県（*Phytophthora* sp.）、愛媛県、佐賀県（*P. nicotianae*）、秋田県、北海道（*P. asparagi*）で報告されている。

6 病徴および病原菌の生態

- （1）茎部に水浸状の病斑（図3）を形成し、若茎の多くは穂先に湾曲症状を呈する（図1）。
- （2）地下部（鱗芽群や貯蔵根）が感染すると褐変・腐敗するため、親茎の生育不良を引き起こし、症状が進むと擬葉が黄化し、株は枯死して欠株となる。
- （3）病原菌の生育適温は25℃前後で多湿を好むため、梅雨時期や秋雨時期に発生が多く見られる。
- （4）罹病残渣や感染株、土壌中の卵胞子が発生源となる。このため、発生圃場で改植すると苗の生育不良や枯死を招く（図4）。
- （5）病原菌は、水や土壌の移動により伝播する。



図1 若茎の症状（地際部の軟化腐敗）

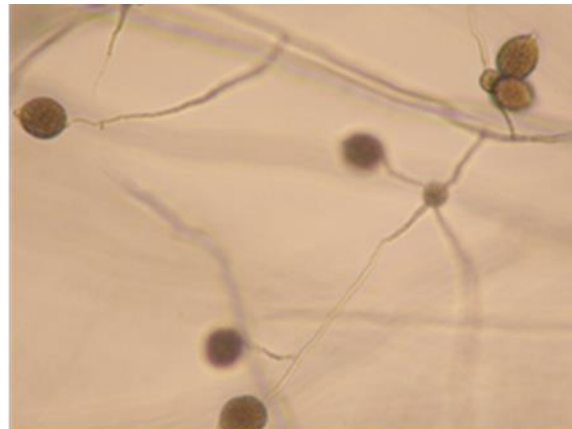


図2 病原菌



図3 親茎の症状

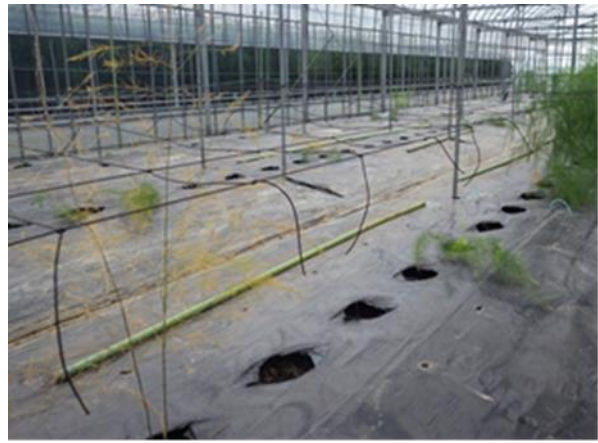


図4 改植圃場での苗の枯死

7 防除対策

- (1) 発病が確認された圃場の土壌を他の圃場に持ち込まないようにする。
- (2) 畦間に水が停滞しないよう、過度の灌水を避け、ハウス周囲に明渠を掘る等の排水対策を行う。
- (3) 発病茎は早急に抜き取り、圃場外に持ち出し、適切に処分する。
- (4) 発病を確認した圃場においては、立茎開始後から登録薬剤（表1）による防除を行う。薬剤散布においては、登録内容（使用時期、希釈倍数、使用回数等）を遵守する。

表1 アスパラガス疫病に登録のある薬剤

薬剤名	使用時期	希釈倍数	散布液量	使用回数
ダコニール 1000	収穫前日まで	1000 倍	100～400ℓ/10a	4 回以内
プロポーズ/ワイドヒッター 顆粒水和剤	収穫前日まで	1500 倍	100～300ℓ/10a	3 回以内
フォリオゴールド	収穫開始 7 日前 まで	1000 倍	100～400ℓ/10a	3 回以内

※いずれの剤も TPN を含んでいるため使用回数に注意する（TPN を含む剤の総使用回数は 4 回以内）。

○長崎県病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「長崎県病害虫防除所ホームページ」 アドレス：<http://www.jppn.ne.jp/nagasaki/>

○この情報に関するお問い合わせ

長崎県病害虫防除所 TEL：0957-26-0027

